

臨床研究

「日常生活動作から得られる特徴量を用いた認知症のスクリーニング法の開発」について

筑波大学附属病院精神神経科では、標題の臨床研究を実施しております。

本研究の概要は以下のとおりです。

① 掲示の目的

本掲示は、これまでに本研究（「日常生活動作から得られる特徴量を用いた認知症のスクリーニング法の開発」）にご参加いただいた方に対し、研究計画の更新（研究成果の利用に係る記述の具体化・詳細化）についてご説明するために掲載しております。詳細につきましては「⑧研究成果の利用について」をご参照ください。

② 研究の目的

認知機能が低下している方々に日常生活でみられる特徴的なパターンから認知機能の低下を早期に発見する方法の確立と実用化を目指しています。調査項目には、動作、音声、視線、日常的でない対象物（例：人型ロボット）に対する関わり方などを含みます。

③ 掲示対象者

2017年7月12日～本掲示掲載日までの間に本研究にご参加いただいた方

④ 研究期間：倫理審査委員会承認日（2017年7月12日）～2025年3月31日

⑤ 研究の方法

動作や音声、視線をはじめとする行動特徴と、神経心理検査や画像検査、血液検査をはじめとする検査結果の間の関連を分析します。

⑥ 試料・情報の項目

各種機器により測定された動作・音声・視線などの特徴、一般調査（身長、体重、発達歴、教育歴、現病歴、生活状況など）、認知機能検査、頭部画像検査、血液検査、バイタル指標

⑦ 試料・情報の第三者への提供について

上記の試料・情報は、個人を特定できないよう匿名化された形で共同研究機関（静岡大学および日本アイ・ビー・エム株式会社）に提供され、共同研究機関において解析されます。データの受け渡しはパスワードで暗号化された記憶媒体を介して行われます。

⑧ 試料・情報の取り扱いについて

本研究で得られた資料・情報は、下記の研究で使用することがあります。

「認知症スクリーニング手法の開発 (R01-137)」

「人間ドック受診者の認知機能および行動特徴に関する観察研究 (R01-168)」

「精神神経疾患における脳画像—体液バイオマーカー相関に関する多施設連携研究 (R02-328)」

⑨ 研究成果の利用について

本研究の成果は学会や学術誌への論文等で発表される予定ですが、個人を特定可能な情報は公表されません。また、本研究にもとづき開発された解析技術は、日本アイ・ビー・エム株式会社による中高年者のQoL（生活の質）向上を目的とした製品やサービス等の開発・提供のために用いられる可能性があります。日本アイ・ビー・エム株式会社は技術の応用性を評価・改善する目的で匿名化されたデータを参照しますが、データ自体が外部に公表されることはありません。

⑩ 試料・情報の管理について責任を有する者

筑波大学 医学医療系臨床医学域精神神経 教授 新井哲明

⑪ 研究機関名および研究責任者名

静岡大学 大学院総合科学技術研究科情報学専攻 教授 西村雅史

日本アイ・ビー・エム株式会社 東京基礎研究所 マネージャー 小林正朋

⑫ 本研究への参加を希望されない場合

試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

⑬ 問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名：筑波大学医学医療系 精神医学 根本清貴

電話：029-853-3182（平日 10～17 時）